みいけ附録

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町

夏季特集号

新しい書き手の出現を たくましい芽を育てよう

〃みいけ〃の夏季文芸にたいして創作八編（八人）詩二五編（二四人）短歌二二五首（三六人）俳句二八八句（三三人）川柳三三句（三七人）感想文一二編（一二人）写真六三点（二三人）児童綴方一九編（一九人）その他、と数多くの作品がよせられた。

それぞれ、働く者の作品として素晴らしいものがよせられたが、全体を通じてみた場合、特徴的なことと以上のようなことがらが上げられるであろう。

1、各支部の文学サークルなどの人たちで日ごろから文学活動をやっている人の応募が比較的に少なかったこと。

2、新しい書き手の層が芽ばえつつあること。

3、働く者の立場にたち、職場での労働、家庭での生活に根ざした、たくましい作品がよせられたが、まだ趣味の域を出ない初歩的なものが相当多かったこと

北海道の仲間の一人はこういっています。

「ぼくはいま掘進をやっています。文学をはじめた動機というのは……あまりはつきりと判らないんですが、えー、そのとき女房と恋愛しました。親は許してくれないんで、女房を連れて北海道に来ました。途中、連絡船のデッキで夜空を見ながら、このことを小説になるなんて女房にいったりして……。北海道に来てから二年ほど土方をしたんですが、そのころも小説は書いていたようです。読んでいた本は窪三四郎や宮本武蔵です。書いたものは推して知るべしです。本気になつて働く者の文学を書こうと考えはじめたのはサークルで学習をつづけていくうちに……」（月刊炭労より）と。

働く者の文学は頭の中でこしらえるのではなくて、職場活動や、学習をつみかさね、労働と生活の中から生れることをおしえています

三池でも、もと〃炭鉱地帯〃などを発行してかなり活発な活動がみられていたが、そこに集つていた書き手が、直接職場や地域活動など労働運動の前面での活動に力を注ぐことになつた理由などから一時停滞していたかのように見えたが、たくましい労働者のエネルギーの発展は止まらはずがなく三川支部の文学サークルの結成など、新しい力が高まつてきた。〃みいけ〃への日々の投稿、地域機関紙を支えている地味な数多くの活動家が活躍しています。

しかし、これらの活動家が交流をふかめ三池全体の文化活動を一層素晴らしいものに高めてゆくための努力はまだ十分でないようです。

いま三池に発展しつつある、たくましい芽を育て、豊かな未来の開拓者として、たゆまぬ前進をつづけましょう。

編集部長　境　孜

佳作「まり遊び」三川　米崎邦好
トヨカ35　ロザー2・8　Y2　F8　三〇〇分の一秒
ネオパンSS　コニプティン　コレクトール　吉野

祈り

岩本宗二郎

炎日の平和行進に汗垂らすをとめらを戯象と終らしむるな
八月六日のサイレンわたる朝著く机の前にしばし眼を閉づ
祈る日の喉ひらけばケロイドを刻まぬ腕灼けしをとめら
憤ることさえ虚し街ゆけば酒場に夜の楽燥転す
パチンコの盛んなる街被爆者を救う掟のなき国のさま

入選発表

◈創作
入選作品なし
佳作一席「忘年会」三川　志本　太
〃二席「公傷」三川　岡浦　益美
〃三席「役員」三川　外山あきら

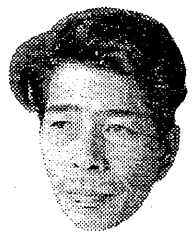
◈詩
入選作なし
佳作　宮浦　河津　洋毅
〃　四山　久保田和昭
〃　三川　長本　勇
〃　宮浦　永野　準平
〃　三川　有芳　太郎
〃　三川　塚野　道子

◈短歌
一席　三川　樫本　国義
二席　製作　藤本　盛登

◈俳句
一席　宮浦　山西　青蛙
二席　三川　永野　定一
三席　四山　藤本　凡世
佳作　三川　竹本　雅子
〃　四山　馬場　公元
〃　三川　今田　光義

◈川柳
一席　三川　松尾　末吉
二席　宮浦　山西青蛙子
三席　本所　堤　雨穂
佳作　三川　正木　登
〃　三川　外山あきら
〃　製作　森口　鶴堂

◈感想文
三席　製作　永松　運造
佳作　宮浦　中西　長蹴
〃　製作　長谷川正春
〃　製作　江上　輝広
〃　宮浦　山西　光一
〃　四山　馬場　公元



坑内に奇蹟

田中津根を

坑内のごきぶり棒先に死なせ繼する身
白蛾よろばう坑内の異臭を溜め点く灯
暑き睡むさの四肢や跋このねずみ
穂立つえのころ青く旱天美しすぎ
七月二十六日一番方終了前突如大落盤、採炭夫埋まる
坑気涼しく生埋め坑夫に奇蹟生る

入選作なし
佳作　三川　中尾　種夫
〃　所属氏名不詳

◈写真
入選作なし
佳作　三川　米崎　邦好
〃　三川　長南　久太
〃　三川　柴藤　善吉

◈学童つづり方
一席　宮浦　杉江　政美
二席　宮浦　緒方　静枝
三席　本部　佐伯　裕子
佳作　宮浦　加藤ゆきよし
〃　本所　田中　賢次
〃　宮浦　山下美智子

感想文【佳作】

「発表」

（氏名不詳）

私たちは働く事については仲々不得手である。特に重労働の三交替をしている者にとつては時間的にも若干の困難さがある。

ああいう事を書こう、こんな事を話そうと思つていても坑外に出て見ればそんな事は皆消えてしまい家に帰つて休むか、つまらぬ遊びに一日を終つてしまつたりする。

どうしてだろう。

それはいろいろな理由があるだろうけど、私はこう考える。

坑内という一種特殊な条件のもとでいつも不安感にかられているからである。私は或一人の鉄道マンからこんな言葉をきいた。「炭鉱は、非常に大げさに災害を発表する。鉄道にも多くの危険な作業があり、坑内と余り変らないがね」と。これには私も驚いた。坑内での不安感を実感として知らないからだ。勿論、鉄道の職場は危険度の低い所ではない事は認められる。しかし何時大落盤が起るか判らない、またガス爆発や出水事故が起るかも知れない、実際に坑内の第一線で働らいて見なくては、感じられない不安感がある。

このような特殊条件のもとで働いているため坑外に出たら考える事や、文章を書く事などが面倒になり、一時的享楽に走りがちになるのではなかろうか。

自分の主張を発表する事は我々の生活を前進向上させることに非常に大切な事だとは思つても、そう簡単なことではない。

実行のない考えは空想である。頭の中で考えることだけであればだれでも大臣にも、社長にでも大芸術家にでもなれる。だがそんなことを考えたところで何の役にもたたない。職場での出来事や生活の中からのよろこびや悲しみ、苦しみや不満を発表し話合いをひろげなくてはならない。

みんなが考えている事を遠慮なく出し合える民主的な空気をつくることが大切である。

自分の考えていることを自由に話したり書いたりする勇気も必要だが、それと同時に、物事を正しく考える力、正しく見る力などを養う必要がある。そのためには本を読むことや学習活動などに積極的に参加せねばならない。

一部の人、一定の人にのみ限定される発表でなく、みんなが意見を出し合つてその中から正しい方向が見出されるべきである。みんな文章を書こう。自分の考えていることを話そう。

明るい社会の建設のため明日への未来への希望を持ちたいと思うその第一歩は自分の思つたことを発表する事ではなかろうか。勇気を出して書こう。話合おう。私も、あなたも、みんなが。

選評

（編集部）

十二編の感想文があつまつたが入選作として取上げるほどのものはなかつた。

全体の感想文をみると大体二つの傾向にわかれているようであつた。その一つは、決してつまらないという意味ではないが、何か頭の中で作り上げたものを仰々しく大げさな論文調に書いたもの。もう一つの傾向は、職場での問題や生活の中から思いついたことなどを書いたものだが、論旨が粗雑でまとまりに欠けているもの。そのような欠陥はあつたが、どの感想文も一応の問題点をとらえ、われわれが組合運動を進めるために考えなければならない大切なことについて、また人間として生活を営んでゆく上での重要なことがらを書いたものであつた。

文章のまづさなどを指摘することよりも、問題を提起し解決をしようとする積極的な努力を評価すべきだろう。

こんどの夏季文芸に応募した人達ばかりでなく、日ごろみいけの「仲間の声」「姿見」などに投稿している人達も含めて、例えば生活つづり方運動などに発展させ、どんな素ぼくな意見でも大切にしみんなの力で組織を強めてゆくために、書き手の養成とその組織化が必要だと思つた。

【佳作】「生活革命運動に思う」（三川中尾種夫）は、この運動の必要性とそれを進めるためのいくつかの問題を指摘し、より充実したものにしようという主張であるが、やや一般的でありもつと実際活動の面から問題を掘り起した方が良かつたのではなかろうか。若干の添削を加えた。

【佳作】「発表」　筆者不詳

炭鉱労働者の特殊性の説明に重点がかかりすぎてせつかくの問題を十分まとめることが出来なかつたきらいがある。主張点をはつきりさせることを忘れないようにすべきであつた。文章もさんまんだつたのでこれも若干添削をしてみた。

感想文【佳作】

生活革命運動に思う

三川　中尾　種夫

賃上げや期末手当の闘争が激しくなると、「こんなに長く闘つていると資金カンパを多額に差引かれて、俺達の生活はどうなるか判らない」と不安がる者がいるかと思えば、「肥料をやらずに収獲だけを得ようとするのが無理だ、盆や正月は延ばしても最後まで闘え」と頑張る者もいる。同じ職場でさえ異つた意見を聞くことがある多勢の家族を抱え働いても働いても、苦しい生活にあえいでいる組合員にとつて、長期間闘うことは耐え難いことであろう。一日ストを行うことは一日食糧を絶つことであるが、闘わずして賃上げや期末手当の獲得は到底望めない。労使の対立は生やさしいものではなく、闘い以外には解決の道は開かれない。生活革命運動の考え方は総べて次の闘争に備えてのものであり、闘争に直結していることを改めて認識せねばならない。

ほとんどの組合員が、「俺の家は金受後、一週間もすると財布が空になる」とか、「毎月赤字ばかりだから働くのに希望が持てない」と語り合つている。そんな家庭ではおそらく家族会議もせず家計簿も記入していないのであろう。収入の少いことを嘆く主婦の声をよく聞くが、そんな人に限つて給料の消費状態をよく知つていないのではあるまいか。給料一日寝かせ運動の意義を考え、綿密な予算を立てることが、生活改善の第一歩である。今回も組合、主婦会から立派な家計簿を配布されたので早速活用してもらいたい。そうすることによつて家庭内は常に明るく張合いのある毎日を過せるであろうことを確信する。

三人寄れば文殊の知恵という言葉がある。また、どんな人間にも長所や短所がある。班内には坑内の直接夫も居れば坑外勤務者もいて収入や年令も同一ではないが、家庭の民主化、家計の合理化、児童対策、保健衛生等の共通する課題をもつている。班会議は形式的でなく体験や苦心談を出しあい、最善の方法を見出して欲しいものである。自分の家ばかり商売でも道路や廓捨場が汚れていては、ハエや蚊が発生するのと同じで班全員が協力しなくては、明るい生活は築かれない。

最近は組合主催による職場や地域対抗のソフトボールなど諸行事が盛んに行われて健全娯楽の面では慰労会が催されるのが例であるが、行事の後では結果的には度を越す者もいてかえつて親睦を乱すことが多い。スポーツばかりではなく、いろいろな会合や来客に対しても酒を出さねば失礼だと思つている者も少くない。指導者の中には人に酒を飲ませて満足している者もいるが、これは是非改めてもらいたい。飲酒のため暴力沙汰をおこして職場でも、苦しい生活にあえいでいる組合員にとつて、長期間闘うことは耐え難いことであろう。一日ストを行うことは一日食糧を絶つことであるが、闘わずして賃上げや期末手当の獲得は到底望めない。労使の対立は生やさしいものではなく、闘い以外には解決の道は開かれない。生活革命運動の考え方は総べて次の闘争に備えてのものであり、闘争に直結していることを改めて認識せねばならない。

ほとんどの組合員が、「俺の家は金受後、一週間もすると財布が空になる」とか、「毎月赤字ばかりだから働くのに希望が持てない」と語り合つている。そんな家庭ではおそらく家族会議もせず家計簿も記入していないのであろう。収入の少いことを嘆く主婦の声をよく聞くが、そんな人に限つて給料の消費状態をよく知つていないのではあるまいか。給料一日寝かせ運動の意義を考え、綿密な予算を立てることが、生活改善の第一歩である。今回も組合、主婦会から立派な家計簿を配布されたので早速活用してもらいたい。そうすることによつて家庭内は常に明るく張合いのある毎日を過せるであろうことを確信する。

組合の指令一本で、全組合員とその家族を動員し、外面だけの闘争態勢を整えることは簡単であろうが、頭の内面まで切り換えさせることは決して容易なことではない。生活革命運動のどの一つを見ても、十年はおろか一生かかつても完遂できそうもないものもあるけれど、新しい社会建設のためには腕をこまねいて傍観することは許されない。私達はいままで余りにも組合任せであつたことを自覚するとともに、他力本願ではならないことを十分わきまえ、家族ぐるみの運動を強く進めてゆきたい何事も努力なくて成果をあげることはできないであろう。日暮れて道は遠くとも、明日への希望を胸にたゆまぬ努力をつづけよう。